

湊谷夢吉とその時代

— 1970, 80 年代の札幌の創造空間 —

法政大学大学院政策創造研究科

増淵敏之

おそらく湊谷夢吉といってもほとんどの方はご存じないだろう。1970, 80 年代に活動したマンガ作家である。彼は北冬書房から『魔都の群盲』、『マルクウ兵器始末』、『紅龍異聞』の3冊の作品集を残して、1988年39歳で夭折した。1997年にも彼の作品集はアスペクトから発売されており、その作品の独自性とクオリティの高さが現在もなお認められている。

没後には「活字にならなかった死亡記事・漫画家と民俗学者の死 山口昌男」(本8月号)、「イメージの冒険者 故湊谷夢吉 寡作の中の“豊穰”の再発見 松枝至」(毎日新聞10月20日)などの記事が寄稿され、翌1989年には『夜行』の追悼号が刊行されている。ここでは高野慎三、梶井純、花輪和一などの文章が寄せられた。彼の作品は大半が昭和初期に時代設定がなされ、日本では京都、中国では上海が舞台のものが多かった。

湊谷夢吉は1973年に札幌で「銀河画報社」の設立に関わり、マンガ誌「銀河画報」を発行、彼はその後、『夜行』に作品を掲載、またマンガのみならず音楽、映画などにも積極的に関わっていく。それが1970, 80年代の札幌のカルチャーシーンを活発化させたひとつの要因になったといえよう。それは例えば山田勇夫の『アンモナイトの囁きを聞いた』のコンヌ映画祭出品、後続の山崎幹夫の映像作品、シェッタガーリアなど地元インディーズバンドの映像作品にも大きな影響を与えていった。

おそらくそれと同様の動きは他の地方都市にも少なからずあったに違いない。ただコンテンツ産業が東京一極集中をする状況の中では、地場市場だけではなかなか採算が取れず、それだけで個人個人が生計を立て

ることも難しかった。ポップカルチャーは産業化することによって経済を創出していくが、当時において地域に依拠して成功することは多くはなかった。

日本のポップカルチャー形成の過程の中で1970, 80年代が非常に大きな意味を持っていることは自明のことであろう。音楽でいえばニューミュージックがJ-popに代わって行ったわけだし、映画でいえばATGの登場から映画の復権へと至り、マンガでいえばトキワ荘の人々や花の24年組が作家として大成したわけであり、コンテンツ市場の拡大が行われた時期である。

あくまで地方都市のムーブメントは傍流に位置づけられるが、ただ地方都市からの人材流出がポップカルチャーの本流形成に寄与したこともまた事実である。しかしデジタル化の時代になってインターネットが普及する現在、その領域でも地方発の幾つかの成功事例が生まれてきた。ようやく地方都市でも産業化への道が開かれてきたのかもしれない。そこに地域の再生のひとつの鍵がある。

残念ながら1970, 80年代の地方都市のポップカルチャーシーンに関する研究はほとんど見当たらない。しかしその時代、札幌を始めとした各地方都市は十分に都市空間の中に「クリエイティビティ」を内包していたという前提に立って、秋以降、「湊谷夢吉とその時代—1970, 80年代の札幌の創造空間—」をテーマに研究を始めてみようと考えている。パサージュ論を再考しながら、創造の「場」の再確認の作業になっていくのかもしれない。

2009年
11月14日
土

2009年度秋の講演会は、静岡県浜松市で開催

文化経済学会<日本> 2009年 秋の講演会 「文化イベントの経済的意義」

この秋、浜松市では国際ピアノコンクールや、モザイクカルチャー世界博、国民文化祭、文化庁メディア芸術祭浜松展等、大型イベントが多数開催されます。近年、全国各地で文化イベントが盛んに行われつつありますが、地域経済が低迷する中でイベントの景気浮揚効果に期待が集まる一方で、厳しい財政事情の中、様々な批判も聞かれます。そこで、今回の講演会では、文化イベントの経済的意義をテーマに、多面的な検討を行います。

経済的な意義には、景気面に着目した所得や雇用等、フローにおける経済波及効果から、イベントのあとに地域社会に残される効果、すなわち、文化施設等の固定資本形成に加え、人的資本や社会関係資本等のストックに対する影響等があります。さらには、これらが地域産業に与える影響や、長期的・持続的な経済成長や文化創造の問題など、様々な視点から議論してみたいと思います。

プログラム

14:00～14:05	開会挨拶 清水裕之 (名古屋大学教授 / 文化経済学会<日本>理事長)
14:05～14:45	基調講演「地域経済と文化—エコノミックインパクトを超えて」 後藤和子 (埼玉大学教授 / 文化経済学会<日本>副会長)
14:50～15:20	講演1「産業連関表からみた文化イベントの経済効果」 安田秀穂 ((株)セントラルプラザ取締役総務部長 / 元東京都統計調整担当部長)
15:20～15:50	講演2「文化イベントが地域社会に残すもの」野田邦弘 (鳥取大学教授)
16:00～17:00	パネルディスカッション パネリスト：後藤和子 / 安田秀穂 / 野田邦弘 コーディネーター：片山泰輔 (静岡文化芸術大学准教授)

❖場所：静岡文化芸術大学講堂

(浜松駅徒歩15分、浜松駅よりバス便もあります)

❖参加費：一般 1,000円 / 学生 500円

(当日受付でお支払いください)

❖懇親会：18:00～20:00 S-table

(大学より徒歩5分)

参加費：一般 5,000円 / 学生 2,500円

(当日受付でお支払いください)

❖エクスカーション ※詳細および申込方法は別途記載

11月13日(金) ピアノコンクール二次予選見学

(アクトシティ浜松：浜松駅徒歩5分)

11月15日(日) 浜松モザイクカルチャー世界博2009見学

(はままつフラワーパーク：浜松駅からシャトルバス30分)

❖参加申込方法

電子メールでのお申込み

事前に以下の情報をそえて電子メールにてお申込みください。

- ①参加者氏名 ②連絡先(郵便番号、住所、電話番号)
③懇親会参加の有無 ④その他連絡事項

FAX・郵送でのお申込み

同封の申込フォームに記載の上、お送りください。

❖申込先：静岡文化芸術大学 片山泰輔研究室
(担当：加藤美穂)

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1

e-mail: suac_katayama@yahoo.co.jp

FAX: 053-457-6132

❖お問合せ 上記電子メールまたは、

電話：053-457-6186 (研究室直通)

エクスカーションのお知らせ

文化経済学会<日本>担当理事 片山泰輔 (静岡文化芸術大学)

A 浜松国際ピアノコンクール コース 二次予選 1 日目見学

❖日時：11月13日(金) 10:00~21:00(出入り自由)

❖場所：アクトシティ浜松 中ホール

(JR浜松駅から徒歩5分<駅直結>)

❖参加定員：40名(先着順)

浜松国際ピアノコンクールは、1991年に浜松市制80周年を記念して、楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化事業としてスタートし、以後3年毎に開催されています。世界を目指している多くの若いピアニストに日頃の研鑽の成果を披露する場の提供と彼らの育成、世界の音楽文化の振興、国際交流の推進を目的としています。

今回、エクスカーションAコースでは、11月5日からのコンクール一次予選を勝ち抜いた若手ピアニストたちによる二次予選の演奏をお聴きいただきます。申込者の方へ入場券(ご招待)をお送りいたしますので、ご自由な時間帯に見学してください。招待チケット枚数に限りがありますので、申込先着順、40名様を定員とさせていただきます。



アクトシティ浜松

B 浜松モザイカルチャー世界博 コース 2009 見学

※同封案内参照

❖日時：11月15日(日) 9:00頃 浜松駅集合

❖場所：はままつフラワーパーク (JR浜松駅からシャトルバス40分)

❖参加費：2,700円(予定。往復交通費を含む)

※当日お支払いください。

エクスカーションBコースでは浜松駅に集合し、シャトルバスに乗って会場へ行き、モザイカルチャー世界博を見学します。

モザイカルチャーとは絵画や彫刻などの芸術と草本植物の葉や花の魅力を生かす造園や園芸の環境創造技術が融合した全く新しい文化創造のジャンルです。あらかじめ構築された金属フレームの像の表層部に生きた草本をデザイン通りに植え込んで作る人、動物、風景などの像及び群像と二次元の緑花床で景観を創造する「緑花像景アート」と定義されます。このような花や葉の美しい草本で作る大型の像を導入した庭園や公園の景観が多くの人の共感を呼び、新しい文化の創造と世界平和を基本理念とする国際モザイカルチャー運動として1998年にモンテリオール市で国際モザイカルチャー委員会が設立され、3年に一度の世界博覧会が開催されています。浜松大会は第4回で、日本で初めて開催されるものです。

参加申込方法

❖電子メールでのお申込み → 事前に以下の情報をそえて電子メールにてお申込みください。

- ①参加者氏名
- ②連絡先(郵便番号、住所、電話番号)
- ③当日連絡先(携帯電話、携帯メール等)
- ④参加コース
- ⑤その他連絡事項

❖FAX・郵送でのお申込み → 同封の申込フォームに記載の上、お送りください。

申込先 静岡文化芸術大学 片山泰輔研究室(担当：加藤美穂)

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1

e-mail: suac_katayama@yahoo.co.jp

FAX: 053-457-6132

❖お問合せ：上記電子メールまたは、電話：053-457-6186(研究室直通)

静岡文化芸術大学へのアクセスと周辺案内図



(注) ★は憩親会会場「S-table」、図中の数字は宿泊施設の位置

静岡文化芸術大学へのアクセス

● JR東海道本線 浜松駅北口から徒歩15分

● バスをご利用の場合

◇遠鉄バス

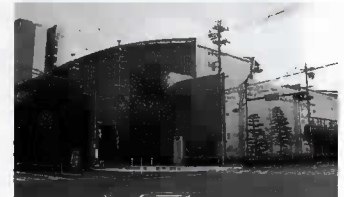
(10分間隔で運行しています)
浜松駅北口バスターミナル
10番のりばから出ているバスは、静岡文化芸術大学を通ります(ただし、系統番号70番「子安・笠井」行きを除く)。

バス停「文化芸術大学」下車

◇浜松市循環まちバス くる・る

(15分間隔で運行しています)
浜松駅北口バスターミナル
12番のりば「まちなか東ループ」。バス停「文化芸大」下車

※大学から浜松駅へ向かうときは、「まちなか西ループ」にお乗りください。



静岡文化芸術大学

■静岡文化芸術大学・浜松駅周辺宿泊場所 (各宿泊施設の場所は地図を参照ください)

	宿泊施設名	浜松駅から	静岡文化芸術大学まで	電話番号
①	浜松名鉄ホテル	徒歩4分	徒歩15分	053-452-5111
②	オークラアクトシティホテル浜松	徒歩7分	徒歩15分	053-459-0111
③	くれたけイン アクト浜松	徒歩7分	徒歩10分	053-459-1511
④	ルートイン浜松駅東	徒歩12分	徒歩10分	053-413-1711
⑤	HOTEL day by day	徒歩12分	徒歩10分	053-452-6600
⑥	ホテル・ルモンド	徒歩4分	徒歩20分	053-455-1188
⑦	サゴーターミナルホテル	徒歩4分	徒歩20分	053-453-3515
⑧	コートホテル浜松	徒歩5分	徒歩20分	053-457-0505
⑨	東横イン浜松駅北口	徒歩10分	徒歩15分	053-457-1045

※宿泊場所の手配は個人でお願いします。

決算報告

可児大会で開催された総会で、2008年度収支決算および2009年度収支予算が承認されました。(2009年6月14日)

■文化経済学会<日本>2008年度収支決算書 (2008.4.1-2009.3.31)

<収入>	予算額	決算額
会費収入	6,700,000	8,140,000
個人会費	6,000,000	7,450,000
団体会費	700,000	600,000
研究事業収入	1,000,000	936,000
大会参加費など	1,000,000	936,000
助成金	0	0
普及事業収入	1,500,000	1,285,450
講演会参加費など	100,000	93,500
出版物収入	100,000	14,000
学会誌収入	1,300,000	1,177,950
雑収入	10,000	3,292
事業調整積立金取崩	0	0
当期収入合計	9,210,000	10,364,742
前期繰越金	2,125,648	2,125,648
収入合計	11,335,648	12,490,390

<支出>	予算額	決算額
研究事業費	4,700,000	5,043,331
研究大会	1,500,000	1,325,507
論文集	2,700,000	3,168,900
編集費	300,000	294,270
送料	200,000	254,654
普及事業費	500,000	282,591
講演会	500,000	282,591
広報費	1,250,000	1,110,132
ニュース	550,000	480,950
編集費	300,000	222,750
インターネット	100,000	76,500
送料	300,000	329,932
学会運営費	4,260,000	4,774,394
理事会	100,000	82,761
理事会交通費補助	1,200,000	1,581,890
名簿	650,000	684,600
事務委託	360,000	360,000
臨時雇賃金	1,600,000	1,610,929
通信費	150,000	208,428
消耗品費	150,000	178,457
雑費	50,000	67,329
予備費	125,648	0
事業調整積立金繰入	500,000	300,000
当期支出合計	11,335,648	11,510,448
(当期収支差額)	(-2,125,648)	(-1,145,706)
次期繰越収支差額	0	979,942
合計	11,335,648	12,490,390

■貸借対照表 (2009.3.31)

資産の部	2007		2008		負債及び正味財産の部	2007		2008	
現金	114,055	123,306	負債 未払金	3,749,840	1,739,557				
銀行普通預金	1,234,384	1,424,231	前受金	80,000	0				
銀行定期預金	2,514,298	2,516,476	預り金	750	0				
郵便振替口座	3,692,115	440,100	借入金	0	0				
未収入金	426,000	540,000							
			正味財産	4,150,262	3,304,556				
			(うち事業調整積立金	2,500,000)	(うち事業調整積立金				
					2,800,000)				
合計	7,980,852	5,044,113	合計	7,980,852	5,044,113				

■文化経済学会<日本> 2009年度収支予算書

<収入>	2008予算額	2009予算額
会費収入	6,700,000	6,800,000
個人会費	6,000,000	6,300,000
団体会費	700,000	500,000
研究事業収入	1,000,000	1,000,000
大会参加費など	1,000,000	1,000,000
助成金	0	0
普及事業収入	1,500,000	1,500,000
講演会参加費など	100,000	100,000
出版物収入	100,000	100,000
学会誌収入	1,300,000	1,300,000
雑収入	10,000	10,000
事業調整積立金取崩	0	0
当期収入合計	9,210,000	9,310,000
前期繰越金	2,125,648	979,942
収入合計	11,335,648	10,289,942

<支出>	2008予算額	2009予算額
研究事業費	4,700,000	4,800,000
研究大会	1,500,000	1,300,000
論文集	2,700,000	3,000,000
編集費	300,000	300,000
送料	200,000	200,000
普及事業費	500,000	300,000
講演会	500,000	300,000
広報費	1,250,000	1,200,000
ニュース	550,000	500,000
編集費	300,000	250,000
インターネット	100,000	150,000
送料	300,000	300,000
学会運営費	4,260,000	3,760,000
理事会	100,000	100,000
理事会交通費補助	1,200,000	900,000
20周年記念事業準備費	0	100,000
名簿	650,000	350,000
事務委託	360,000	360,000
臨時雇賃金	1,600,000	1,600,000
通信費	150,000	150,000
消耗品費	150,000	150,000
雑費	50,000	50,000
予備費	125,648	29,942
事業調整積立金繰入	500,000	200,000
当期支出合計	11,335,648	10,289,942
(当期収支差額)	(-2,125,648)	(-979,942)
次期繰越収支差額	0	0
合計	11,335,648	10,289,942

ご寄贈ありがとうございました。

『文化移民—越境する日本の若者とメディア』藤田結子著
新曜社 2009年4月<出版社寄贈>

『文化に投資する時代』亀田卓、寺嶋博礼共著 朝日出版
社 2009年6月<著者推薦>

会費納入のお願い

2009年度年会費の入金がお済みでない会員の方はお振込みをお願いいたします。

2009年度年会費 10,000円

口座名義 文化経済学会<日本> ブンカケイザイガッカイニホン

口座番号 郵便振替口座 00150-6-606423

ゆうちょ銀行 019 (ゼロイチキョウ) 店 当座 0606423

みずほ銀行 新宿新都心支店 普通 1424794

※ご都合の良い方法でお振込み下さい

※退会をご希望の場合、「退会届」をFAX・郵送・E-mailにてご提出下さい。
会費をお支払にならないだけでは退会の扱いとはなりませんのでご注意下さい。
理事会での承認を経て、正式に退会となります。

退会届 ①氏名 ②会員番号 ③所属 ④連絡先 ⑤退会理由

INFORMATION

● 2011年度「研究大会」「秋の講演会」の開催地公募を実施しました

▶ 応募要項

応募方法……(1)応募申込用紙、(2)応募企画書の2点を送付

応募資格……会員であること

応募メチ……学会サイト(下記)参照

http://www.jace.gr.jp/taikai_ronbun.html

送付先……info@jace.gr.jp もしくは

〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30

芸能花伝舎2F (社)芸団協内

文化経済学会<日本>事務局 宛

▶ これまでの開催地

■ 研究大会

年	開催地	公募
2011		公募
2010	兵庫県	兵庫県立大学(2010.7.3-4)
2009	岐阜県	可児市文化創造センター
2008	北海道	北海道大学
2007	埼玉県	埼玉大学
2006	福岡県	久留米大学

■ 秋の講演会

年	開催地	公募
2011		公募
2010	新潟県	新潟産業大学(予定)
2009	静岡県	静岡文化芸術大学(2009.11.14)
2008	宮城県	せんだいメディアテーク、東北大学
2007	富山県	瑞龍寺
2006	高知県	ヨンデンプラザ

▶ 詳細 http://www.jace.gr.jp/taikai_ronbun.html

● 学会誌「文化経済学」編集委員会より

「文化経済学」は、年2回発行され、年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

		第7巻2号 (通巻29号)	第7巻3号 (通巻30号)
締切	論文エントリー	2010年1月末	2010年7月末
	論文提出	2010年3月末	2010年9月末

<応募&掲載条件>本学会員に限られます。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています。(2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします)

<応募方法> FAX、e-mail、郵送のいずれかで、下記7点を事務局までお送りください。

- ① 応募日付 ② 応募者名 ③ 会員番号 ④ 所属 ⑤ タイトル
- ⑥ 論文要旨(400字程度) ⑦ 応募者連絡先

<応募にあたっての留意事項>

- ・過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- ・論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- ・歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- ・応募する論文は未公表のものであること、また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。
- ・提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会ウェブサイトをご参照ください。

<http://www.jace.gr.jp/bosyu.html>

理事会報告

第Ⅸ期第4回理事会報告

2009年4月3日(金) 18:00～20:00 於)同志社大学今出川キャンパス 寒梅館6F 大会議室 出席18名、委任状17通、事務局1名

<第1号議案>会員の入退会

- (1) 入会について(入会8名承認)
- (2) 退会について(退会13名・1団体承認、3名保留)

<第2号議案>2009年度研究大会(可児大会)

衛紀生理事より、進行過程の説明及び内容変更について報告。変更点:記念講演(ジョアン・シェフ・バーンスタイン氏)の中止、英語セッション第一発表を基調講演扱いとする。

<第3号議案>2012年度国際文化経済学会(ACEI)招致予算概算の説明(河島伸子理事)及び国際学会での状況につ

いて報告(後藤和子理事)。2009年6月に開催される国際学会理事会の結果を受け再検討することとした。

<第4号議案>学会WEBサイト

学会WEBサイトに英語版インフォメーションを掲載したことが報告された。

<第5号議案>その他

- (1) 事務局新体制
新職員1名を採用、今後は2人体制で運営し、芸団協職員は運営から外れることとなった。
- (2) 2010年度研究大会(神戸大会)
有馬昌宏理事より日程・体制などについて報告。2010年6月12日(土)・13日(日)で会場申請中。大会委員長は周防節雄氏。他に有馬理事、関西支部の中川幾郎氏・藤野一夫氏・端信行氏などによるチームをつくり、シンポジウムなどについて検討し

ていく。

(3) 20周年事業

理事長より、国際学会招致の他に20周年事業として行う事業についての意見を募集し、検討することが提案された。10周年時同様チームを作り、次回理事会で委員会を立ち上げることとなった。

第Ⅸ期第5回理事会報告

2009年6月13日(土) 11:40～12:40 於) 可見市文化創造センター ワークショップルーム 出席23名、委任状10通、事務局2名

▶国際文化経済学会(ACEI)日本開催決定について

後藤和子理事より、6月6日に行われた国際学会理事会において、2012年の開催地に日本(京都)決定の報告がなされた。

<第1号議案>会員の入退会

(1) 入会について〔入会3名承認〕

(2) 退会について〔退会8名・自動退会40名承認、1名保留〕

<第2号議案>2008年度事業報告・収支決算(案)

総会資料に準じ説明。収支決算/貸借対照表については、次号議案内にて再確認、他は承認。

<第3号議案>2009年度事業計画・収支決算(案)

総会資料に準じ説明。国際学会日本開催決定を受け本格的に準備開始/国内事業を含めた20周年記念事業骨組みを年度内に具体化/事業準備費については三役で検討の結果2010年度から別途予算組みすることとする。2008年度収支決算/貸借対照表/2009年度収支予算については、第5号議案内にて再確認、他は承認。

<第4号議案>2009年度秋の講演会

理事会資料に準じ、2009年度秋の講演会(静岡文化芸術大学)についての説明、承認。

※詳細はNEWS欄に掲載

<第5号議案>20周年事業計画

理事会資料に準じ、事業の骨格/推進体制について説明。

・国際文化経済学会の準備/英文誌発行の可能性/国内イベントの3事業を検討

・上記3事業に財務を加えた体制で推進

▶補足説明/提案/予定等

・国内イベントについては企画と同時に寄付・共催含めて考える必要有

・寄附金について、恒常的に必要になるのであれば、公益法人制度の改革もあり、これを機に公益社団の資格を取るという方法もあり得るのではないかと

・国際文化経済学会の準備体制について

ファンドレイジング、現地サイドなどいくつか委員会を立ち上げる

<第6号議案>2010年度研究大会(神戸大会)

有馬昌宏理事より、理事会資料に準じ、大会テーマ・基本案の説明がなされた。日程について、国際学会との重複が懸念されるようであれば、今ならば7/3,4に変更することも可能であると周防節雄理事から提案があったとの報告がなされた。これを受け、予定されていた6/12,13から、7/3,4に変更することが決定した。

テーマ:「芸術文化を計量評価できるか(仮題)」

日程:2010年7月3日(土)、4日(日)

会場:兵庫県立大学

また、引き続き有馬理事より、今後、国際学会と重なるようであれば6月開催の研究大会を7月開催にする等決めてしまった方がいいのではないかと、との提案もなされた。

<第7号議案>2011年度研究大会、秋の講演会開催地公募

例年通り公募することが承認された。

<第8号議案>学会WEBサイト英語版開始の報告

5月より英語版が開始していることが報告された。

入退会情報(敬称略)

◎第Ⅸ期第4回理事会(2009.4.3)にて承認

入会 河原啓子(日本大学芸術学部非常勤講師)/斉藤全彦(セガサミーホールディングス(株))/高倉美佐子(東芝プロセスソフトウェア(株))/田久朋寛(京都大学大学院博士後期課程1年)/竹山和弘(栗東市役所建設部都市計画課)/辻 聖太郎(大阪市立大学修士課程1年)/遠山義和(埼玉大学経済科学研究科博士課程2年)/谷地田未緒(東京芸術大学大学院修士課程2年)

退会 (社)日本レコード協会 山口春禮 梶川達也 藤本輝美/吉田謙太郎/坪能克裕/金子哲理/廣嶋清志/吉田耕次/黄 姍姍 仲村政文/牧内岩夫 榎田 洋

◎第Ⅸ期第5回理事会(2009.6.13)にて承認

入会 加藤壮一郎(埼玉大学経済科学研究科博士後期課程1年)/三浦純一(都市文化創造機構研究員)/山田清敬(京都橋大学大学院文化政策学研究科)

退会 鹿海信也/中山知子/木下弓子/伊藤裕佳子/外山紀久子/石田 香/伊藤大介/他 自動退会40名

季刊「文化経済学会」No.70

2009年10月1日発行

ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会(日本)

発行人 佐々木雅幸

編集人 清水裕之

〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30

芸能花伝舎2F(社)芸団協内

電話 03-5909-3068 FAX 03-5909-3061

E-mail: info@jace.gr.jp

URL: http://www.jace.gr.jp/

©2009, Japan Association for Cultural Economics